



— 目 次 —

はじめに — 駒ケ根におけるアセスメントのねらい —	沖野外輝夫	5
I. 下水道のアセスメント — 駒ケ根のケース・スタディ —		11
1. アセスメントとは		11
2. アセスメントの目的		11
3. これまでの経過		12
4. 市民参加による調査		13
II. 市民が作る下水道 — 夏の調査報告書 —		17
第1章 下水処理場の臭気調査結果		17
1. はじめに		17
2. フィールド臭気調査結果		17
3. 臭袋法による調査		17
4. この調査でわかったこと		17
第2章 河川の流量・生物調査		19
1. はじめに		19
2. 流量の測定		20
3. 底生生物調査		21
4. 細菌試験の結果		31
5. 魚の食性調査		31
第3章 河川の水質分析の結果		38
1. 調査結果		38
2. 調査結果からいえること		39
第4章 工場排水調査		44
1. はじめに		44
2. 有機系の排水 (味噌や醤油の工場)		44
3. 無機系の排水 (メッキやレンズの研磨)		44
4. 有機物と毒物を含む排水 (病院や清掃工場)		44
5. 最後に		45
III. 下水道アセスメント中間報告 — 最適な公共下水道計画は何か —		49
第1章 結論		49

第2章 経過と検討課題	54
第1節 経過	54
第2節 処理区と処理場の位置に関する代替案	59
第3節 検討項目	59
第3章 計画処理区域・人口・汚水量の決定	63
第1節 計画フレームの決定——将来人口・発生汚水量原単位の検討——	63
第2節 公共下水道処理区域の決定	66
第3節 計画人口・計画汚水量の決定	72
第4章 環境面からの検討	77
第1節 下水道建設に対して考慮されるべき環境項目	77
第2節 駒ヶ根市内中小河川と天竜川の水質	78
第3節 水質・水量・水生生物の他の項目	93
第4節 環境管理のための方策	96
第5節 高度処理について	99
第5章 費用面からの検討	102
第1節 「分散処理」要求の背景	102
第2節 B～Fの費用比較	102
第3節 菅の台分離	108
第4節 処理場の位置と費用	108
第6章 下水処理方式の検討	116
(その1) 中央処理場	116
第1節 浮遊式か固定床式か	116
第2節 オキシデーション ディッチ (酸化溝) の検討	117
第3節 三次処理について	125
第4節 結論	126
(その2) 菅の台処理場	127
第7章 汚泥処理方法の検討——下水汚泥コンポスト農地還元のための聞きとり	
調査結果——	129
第1節 はじめに	129
第2節 調査結果	130
第3節 結果の検討	139
第8章 財政計画	147
第1節 下水道建設の資金計画	147
第2節 個人負担金	149

IV. 下水道アセスメント最終報告書——主として集落下水道について——	153
第1章 中間報告の性格について	153
第1節 中間報告に対する意見や質問	153
第2節 意見や質問に対する答えと中間報告の性格の捉え方	155
第2章 集落下水道に関する検討	158
第1節 集落下水道区域の設定の原理	158
第2節 駒ケ根市における具体的な検討	160
第3節 アメリカにおける事例	169
第4節 各種下水道の性格の違い	170
第5節 各種下水道と費用負担	171
第3章 処理方式について	174
第1節 座間ハイツの調査と土壌浄化法	174
第2節 浸漬汚床法の調査と評価	183
第3節 土壌浄化法と浸漬汚床法の比較	185
第4節 その他の処理方式の評価	185
第5節 処理方式についての結論	188
第4章 (付章) 処理区の分担に関する考察	194
1. はじめに	194
2. 計画要素となる整備手法	194
3. 計画案の設定	195
4. 費用関数の設定	195
5. 比較計算の実行	197
6. 結果	199
7. 考察	199
V. 資料	201
資料1 『市報 こまがね』(駒ケ根市役所発行, 昭和56年3月15日号～ 昭和57年5月1日号より関連記事を抜萃・紹介)	203
資料2 処理場位置変遷の経過——『駒ケ根市公共下水道事業基本計画の変更と 処理場位置決定の経過について』(昭和57年3月, 株式会社オリジナル 設計事務所技術部) ——	213
アセスを終わって——合意形成について考える—— 中西準子	216